

THE OTTEOKI ONMONO EM ボカシ

2003年11月20日
No. 21



編集：EMボカシネットワーク 〒107-0052東京都港区赤坂3-16-11東海赤坂ビル4F TEL03-5570-5262
発行：EM研究機構 〒901-2214沖縄県宜野湾市我如古2-9-2 TEL098-890-1111
印刷：社会福祉法人きそがわ福祉会 きそがわ作業所 〒493-0007愛知県木曾川町外割田西郷西151 TEL0586-86-3763

ボカシでつくる大きな輪 皆で広げよう幸せの輪！



仲間たちの手作りパスタ好評！
一日限りのスローフードレストランで記念写真
新潟県新潟市・ワークセンター會野木

イベントでEMボカシによる 生ゴミ処理を実施！！

知的障害者授産施設オークル
支援課長 勝俣規正

私たち障害者施設でEMボカシを販売している活動をPRし、理解してもらったことは大変難しいことです。どうしたらPRできるだろうか、なにかアピールできる活動は無いだろうか？ということ、飛び切り人の目に付く、町の商工会が主催する「商工夏祭り」に参加をする企画を進めました。



看板娘の呼びかけで売り上げ倍増

企画は、「商工夏祭り」で出る生ゴミをEMボカシ処理して、我がオークルで回収しようという計画です。「EMバケツはどのくらい必要か」「生ゴミコーナーをどう設置するか」「実行委員会に理解してもらえるだろうか」「生ゴミは処理できる量なのか」等々不安な点が多々ありました。企画書を受け取った夏祭り実行委員会も戸惑っていたようでしたが、ボカシやバケツは施設が準備し、経費の負担はかけないというところで「いいことですね」と言ってもらえました。

初めてのことでご迷惑をお掛けしないよう注意して取り組みました。会場にある三ヶ所のゴミステーションにお馴染みの「EMバケツ」と「EMボカシ」と「説明用看板」を設置しました。説明書きで①生ゴミをバケツに入れてください。②汁、その他のゴミは他のバケツに入れて下さい。③横にあるEMボカシを生ゴミにふりかけてください。と明記し、バケツを複数置いておき職員が

一時間ごとに回収しました。



カラフルな容器が人目を引いた

分別は、意外と出来ていて、三ヶ所、十三バケツ(約二百kg)の生ゴミを回収し、オークルで堆肥化処理しました。どのくらいの人に理解してもらえたか疑問ですが、町内の大きなイベントに参加したことは満足でした。実行委員会からも好評を得たので九月二十一日の「ふれあい交流まつり」にも取り組む予定です。来年は、町内すべてのイベントを征服しようという野心を燃やしています。

EMで生きる力を育む

東北支部 工藤正義

青森県には、国立公園十和田湖を始め中世に港として栄えた日本海側の十三湖、太平洋側に小笠原湖という大きな湖があつて、さらに、津軽平野をうるおす岩木川、これら三湖一河川には行政や漁業組合の支援によつて数年前からEM投入が試みられ、大きな成果を上げています。八月には、第二回むつ湾浄化作戦の勉強会が行なわれ、行政関係者にEMへの関心が一層高まつてきています。

さて、私たち東北支部の特色として、これらの浄化活動や勉強会の現場には常に小中学生の参加があります。第一回むつ湾浄化作戦の勉強会では、十和田市立東小学校EMわんぱく隊が事例発表をされました。授産施設でのEMポカシ作りにも参加しています。小笠原湖のほとりにEM活性液投入の際に

は、三沢市立上久保小学校九十人が参加してくれました。



小笠原湖にEMを投入する児童



大人たちに混じって堂々と発表

第二回むつ湾浄化作戦では、青森市立西中学校から学区内の河川浄化が生徒会の伝統行事に育つたことが報告されていきました。また、フォーラムに参加した原別小学校の児童たちはEMの学習意欲が旺盛で、堂々とした質疑力は他のパネラーを圧倒しました。

このように地道なEM普及活動が功を奏してきたのか最近、学校や先生方の研修会に呼ばれる機会が増えてきました。そこで私が力説し

ていることは、総合的学習や環境教育の内容やEM技術にとどまることなく、EMを介して福祉や奉仕活動にも関心や興味を持たせ、地域や福祉施設での人との関わりを通して共存共栄の心を育てることを大事にしてほしいと言うことです。さらに、EMによる環境教育は学区民や福祉施設などと共に実施することにより、子供たちはより一層の成就感や存在感を抱くことができ、EMで解決できる問題を見いだす力が自ずと付くのではないかと訴えています。

EMを介して子供たちの生きる力を育てること

は、EMを知った人の責任であり、善循環の社会作りの根元に成ると思うからです。



子供たちの交流の場として、福祉施設との心を通じ

(EM十和田会代表)

人と人をつなぐ地域の再構築を目指して

高松支部 田口紀縫子



訪問の皆さんの皆さんをお待ちしています

「福祉作業所は地域の中心に有りたい」と言う願いで 年前、春日保育園の野町園長先生の支持を得て同園に隣接して作業所を建てる事ができました。現在、春日保育園が運営する学童保育の小学生、子育て支援センターに通う地域のお母さんと子供たち、育児ボランティアの方々と触れあいながら、春日保育園の洗濯、生ゴミ処理、そしてEMの普及活動を主な仕事にしています。

あじさい作業所のEM普及活動の特色は、EM活性液培養装置を設置し、EMを多くの方々に実感して

いただくためにパワーのある良質なEM活性液の培養に務めていることです。

年契約の環境ボランティアの方々に月一回、EM活性液を届けるほか、JAなど香川県内八カ所でも販売している、安価で手軽で使いやすくなったと喜ばれています。



地域づくりとEMボカシの交流イベント

今一番の大きな期待は、近くのため池（水量三十万トン、周囲二キロメートル）の水質浄化に水利組合がEM技術導入を考えてくださっていることです。香川県は、昔から水資源に乏しく、ため池に頼っているのですが、現在1万四千カ所あるため池はどこもアオコの発生やヘドロが蓄積して水質悪化と悪臭を放っており、対策に高額な資金投入が決めてとまらないのが現状です。当面、EM泥団子六万個投入を目標にしていますが、うれしい

ことに地域の中学校の先生方が関心を持ってくださり、中学生の参加が期待できそうな状況です。人と人がつながっていくことが何よりの地域作りですから、池の浄化を通して香川のため池対策のためにいい結果を出したいと願っているところです。そして、EMの普及活動を通じて、社会的な課題でもある環境問題に誇りを持って取り組み、必要な支援を得て地域でありのままに暮らせる障害者福祉の実現を目指しています。

瀬戸内海の水質浄化に一石を投じた広島海苔養殖加工業の兼田さんから受けたアドバイス、



とちほ間に合の作業

「焦らず、慌てず、諦めずに」が心強い支えになっています。（心身障害者小規模作業所 あじさい所長）

EM女性会議第6回フォーラム in 四国を終えて

EM女性会議実行委員会

事務局 伊里由美子

7月5日、香川県高松市において八五一名の参加者を迎えEM女性会議が開催されました。六回目の今年は最終回です。

「EMで創る食」のいのちからいのちへは、全ての人に共通するテーマであり、食に関する生産から加工までの事例発表を聞きながら、改めて「食べること」の大切さ、精神にもたらすもの大きさを考える良い機会になりました。

特別講演の佐藤初女

さんは、岩手県の岩木山の麓で「森のイスキア」と名づけた家を皆の協力で建て、訪れた人を受け入れ、旬のものを心を込めて調理し、一緒に

食べることで、心を楽にさせ「気づき」をうながすという活動をされています。このことは映画「地球交響曲（ガイアシンプオニー）第2番」で紹介されました。



穏やかに笑顔を絶やさず話しかけてくれた佐藤初女さん

講演のなかで「野菜は火が通った瞬間に透きとおる、その時にいのちの移し替えが行なわれる」「この時に味付けをするとよく味が沁み込む。湯から取り出すとちょうど良い茹で加減である」というお話があり、食するということは素材のいのち

ちをも頂くことなど大変興味深い講演でした。

EM女性会議で学んだことを今後は環境学習ネットワークへとつなげていく予定です。おとなども子どもも学び合う、EMを通じて幅広く社会を知り、考え、行動するそんな活動を推進していきます。「ザ・ボカシ」はEM女性会議参加者への配布資料として毎回ご提供いただきました。誌面をお借りして御礼申し上げます。



会場を埋めた熱心なEM女性たち

作業所と地域ボランティアの 善循環システム

岸大阪支部代表に感謝状贈呈

大阪市堺市にある授産施設「麦の会第二作業所」に通ってくる大半は交通事故や病気などで機能障害を受けた中途障害者で、平均年齢は高く、娘さんやお孫さんに喜ばれそうなパウンドケーキやチーズケーキなどのケーキ作りに取り組んでいます。長谷部重信さん（六十一歳）は、「七年前、脳出血で右半身に障害が残り、六年前から作業所に通ってきていますが、鉄工業職人から菓子職人に大変身です」と楽しそうに話しています。ケーキは保健所売店で販売され、人気も上々とのこと。

EMボカシづくりは、五年前に地元を生ゴミリサイクル研究会・アースウオッチング（鮎川佳寿子代表）から情報を受け、リハビリ効果も期待して取り入れています。今では



ケーキ作りもいいが、EMボカシづくりも子供に戻った砂遊びのようで楽しいよ！

週三回約九十kgを仕込み、その約八割を同研究会に納入。同研究会は、会員間で畑を借り、EM生ゴミ発酵肥料で安全な野菜作りをするなど、EMボカシを作る人と使う人とのよい関係が築かれています。

六月十九日、同作業所で開催された「府民生ゴミぐるぐるネットワーク」（小寺悦子代表）が主催する「食の循環型社会づくり学習会」には、名誉会長も参加、「作業所の作

ったEMボカシが地域の人たちに使われ、野菜が作られ、その野菜を作業所の人たちが食べる機会を得ること、自分たちの作業の行く末を知ることができるシステムを作ってください」と提案しました。席上、岸隆美EMボ・ネット大阪支部代表へ、アースウオッチング堺の鮎川代表から「本会が五周年を迎えることができたのは、EMボ・ネットのおかげ」と、感謝状が贈られました。



鮎川代表から岸大阪支部代表へ感謝状の贈呈

「EMボカシの乾燥方法」

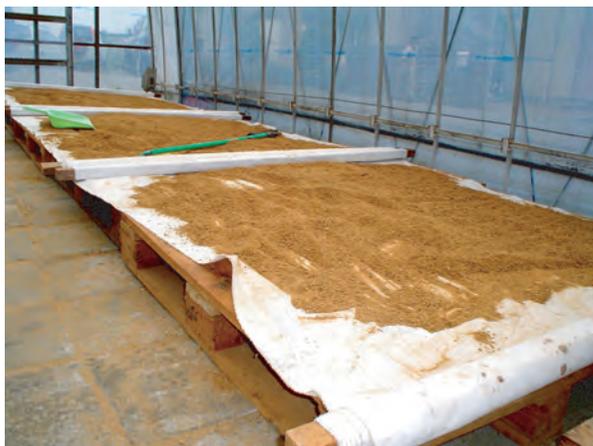
北海道 知的障害者授産施設(通所)オークル



手作り棚と除湿機の利用で速乾に成功！

90×90cmの手作り乾燥棚です。一段ずつ取り外し可能で、生産量が多くなると、天井高くまで積み上げられます。ビニールハウスのシートを利用して天井から囲むように乾燥棚を覆い、シートの内側に家庭内用除湿機を入れ乾燥させます。驚くほどの早さで乾燥するので、梅雨時期にはお勧め。棚の木材と除湿機で3万円以内の経費で完成しました。

茨城県 知的障害者デイサービスセンター 取手市立つつじ



パレット板と布の組み合わせはお勧め！

ビニールハウスの中にパレット板を置き、その上に布を敷きEMボカシを薄く広げます。下から空気が通るので湿気がこもらず乾燥が早まります。ブルーシートではなく、布を用いていることも特徴。ビニールハウスの内の風通しを良くするため、両サイドを少し開け、扇風機も使っています。



太陽の恵みを利用した天日乾燥！

EMボカシネットワークの標準的な乾燥方法です。晴天時にブルーシートを広げ、その上にEMボカシを2cm位の薄さに広げ乾燥させます。気温の高いところでは1日広げておけば十分乾きます。また、直射日光によりEMボカシの微生物が、死ぬことはありません。

<乾燥のポイント>

※短期間で乾燥させることが大切です。

※湿度の低い日に、天日乾燥させます。

※サラサラになるまでしっかり乾燥させます。袋詰め後の白カビ発生を抑制することができます。しっかり乾燥させると長期保存可能になります。

.....Q&Aコーナー..... (お問い合わせのあった、ご質問などにお答えします)

◆廃油石鹼の尿素(20号に掲載)・セラミックスの色についての質問

Q: 廃油石鹼に入れる尿素は、園芸資材店で販売しているものでいいですか？

A: 洗濯や清掃に利用する廃油石鹼は園芸資材店の尿素で構いません。それ以外、直接肌に触れる石鹼に関しては、純度の高い薬局で販売されている尿素をお勧めします。

園芸資材店の尿素には、不純物が含まれているため多く入れすぎると鹼化反応(石鹼ができる化学反応)を妨げる場合があります。

Q: 尿素はどのタイミングでいれますか？

A: カセイソーダを入れるとき、一緒に入れてください。

◆その他の質問

Q: EM-Xセラミックスの色が灰色に変わったのはどうしてですか？

A: より高い抗酸化効果や波動効果を持つように、特殊な焼成方法で炭化成分を含んだセラミックスとなったため、灰色に近い色になりました。

仲間の声



愛媛県のアクティブマインドの仲間たちより、比嘉節子名誉会長あてに届いた自分達ですいた和紙の手紙(右)と特製の楽しいはがき(左)です。

EM関連イベント情報

地球と私のためのエコスタイルフェア～エコプロダクツ2003

日時：平成15年12月11日(木)～13日(土)

場所：東京ビッグサイト東展示場1・2・3ホール

主催：(社)産業環境管理協会、日本経済新聞、その他

連絡先：TEL：03-5281-1550 FAX：03-5281-1561

入場無料です

第9回自然農法・EM技術交流京都大会

日時：平成16年2月21日(土)～22日(日)

場所：国立京都国際会議場

主催：有用微生物応用研究会

連絡先：

本部事務局から

新潟支部は、これまでワークセンター曾野木に事務局を置いていましたが、嘉向施設長の事情でこの度施設を閉鎖することになりました。今後十日町EM研究会会長の島本ひろみさんが世話役となり、支部業務は北陸EM普及協会にて代行します。

連絡先は支部一覧表にて。

環境学習ネットワーク(EL-net)のホームページがオープンしました！

＜環境学習ネットワークとは？＞

学校におけるEMを活用した環境についての取り組みを地域のEM実践者やボランティアと共に支援していくためのネットワークです。

<http://www.school-el.net>

編集後記

ボカシネットワーク発足から九年目になります。その間にボカシを作る技術は進歩し、各施設で製造されたボカシの品質の高さに驚かされます。施設独自の工夫をし、常に良質のボカシを製造するよう心がけてきたことが伝わってきます。

これまでボカシネットワークで蓄積してきた、あるいは活用できる新しい技術を、一人でも多くの仲間たちと共有していきたいと思えますので、取り上げて欲しい記事がありましたら、是非お知らせ下さい。情報を集めて豆知識コーナーで紹介していきます。

また、ご自慢のEM技術がありましたら編集部までお寄せ下さい。

永田